但馬家畜市場

カウカウ情報2026

7月市



光都農業改良普及センター

７月８日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が９０万９千円、　雌が７８万５千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤　佐	6	0.914	920,517	2	0.894	825,000	8	896,638
丹波篠山	4	0.974	956,725	7	0.758	834,743	11	879,100
丹　波	16	0.949	910,181	21	0.825	781,052	37	836,892
朝　来	8	0.958	920,975	3	0.908	888,433	11	912,100
播　磨	31	0.997	910,019	25	0.828	693,616	56	813,411
美方郡	42	0.947	895,426	33	0.867	798,500	75	852,779
豊　岡	6	0.941	901,633	28	0.900	807,675	34	824,256
養　父	16	0.985	1,020,319	12	0.856	848,925	28	946,864
摂津・神戸	10	0.952	905,740	8	0.830	780,038	18	849,872
県北C	10	0.894	755,150	1	0.769	612,700	11	742,200
市場全体	149	0.958	909,013	140	0.852	785,046	289	848,960

7月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	14	0.947	1,000,293	22	0.844	868,950	36	920,028
2	山伸土井	25	0.996	957,880	15	0.881	823,973	40	907,665
3	忠味土井	23	0.951	934,474	12	0.878	835,725	35	900,617
4	丸春土井	16	0.986	979,756	16	0.843	773,300	32	876,528
5	茂和美波	4	0.888	960,025	6	0.886	789,067	10	857,450
	総計	149	0.958	909,013	140	0.852	785,046	289	848,960
6	茂貴波	9	0.971	942,578	8	0.837	723,113	17	839,300
7	杉広土井	8	0.902	859,788	10	0.866	821,700	18	838,628
8	悠森土井	10	0.971	913,770	11	0.850	760,900	21	833,695
9	忠正土井	7	0.913	812,114	8	0.833	735,213	15	771,100

価格は税込み　（10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載）

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩　留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A	A	A	A	A
2	山伸土井	A	A	D	A	A	A
3	忠味土井	B	A	A → B	B → C	A	A
4	丸春土井	C	B	C	B	B	A
5	茂和美波	B	A	C	C	B	A
6	茂貴波	A → B	A	D	D	C	B
7	杉広土井	C	A	B	B	A	B
8	悠森土井	C	C	B → C	B	C	A
9	忠正土井	C → D	C	A	C	B	B

バックナンバーはこちらから

北部農業技術センター提供（育種価評価は令和8年4月現在）

サシバエから牛を守ろう ～ 発生源対策 と 侵入防止 ～

ピリピリとしきりに皮膚を震わせていたり、尾を盛んに振ったりしている牛はいませんか？　それは、サシバエの吸血を避けようとしている牛の行動かもしれません。立ちっぱなしによる負担や採食量の低下につながり、子牛の発育への影響も見過ごせません。

県内の関係機関による調査から、サシバエは、５月から７月前半にかけて増加し、真夏は一時活動が停滞するも、８月後半からまた増加し、晩秋まで活発に活動して、牛に被害を与えていることがわかりました。また、朝と夕に吸血し（春や秋は気温が上昇する昼に近い時間帯）、気温の下がる晩秋を除き、牛に近づく時間帯以外は牛舎周辺の草むらや木陰で休息していることなどの生態も確認されています。

こうした生態にあわせた有効な対策を講じ、サシバエから牛を守りましょう。

牛に群がるサシバエ



△ 羽の形が正三角形
（イエバエはやや縦長）
・体はグレーっぽい
・オスもメスも吸血する
（カやアブは雌だけ）

サシバエ の発生と 行動パターン

① 発生期間：春～晩秋、 ② 吸血：朝夕２回、 ③ 昼や夜は周辺の草むらで休息

サシバエ対策１　卵を産ませない、孵化させない

大切なのは、サシバエの幼虫の発生数をコントロールすること。あるレベルより発生を減らせれば、牛のストレス軽減が可能です。

そもそもサシバエはどうして増えるのか？　その要因は３つ。
① 栄養源（幼虫：糞・残飼、成虫：生き血）　：　両方 たっぷり
② 水 分　：　たっぷり、　③ 温 度　：　充分（ ＋ 温暖化で促進）
うち、人の努力で減らすことができるのは ① 栄養源 だけです。

目に見えている サシバエ（成虫）は全体の２０％で、卵、幼虫、蛹（さなぎ）が８０％を占めるため、幼虫の栄養源である糞や残飼を適切に管理し、幼虫の増加を抑えることが大切です。

サシバエの産卵から羽化までは、気温により半月～１ケ月（平均２０日）ですが、殺虫剤（ＩＧＲ剤（昆虫成長制御剤））の散布は、「食欲が旺盛な３齢幼虫になるまで」が効果的です。このため、気温が25℃を超える時期では、１週間間隔の散布が必要です。

短期間で繰り返し散布するには、労力も薬剤代もかかります。まずは、こぼれた餌や糞がたまる牛舎内外の発生ポイント（右図）を掃除して、薬剤散布が必要な場所を絞り込みましょう。

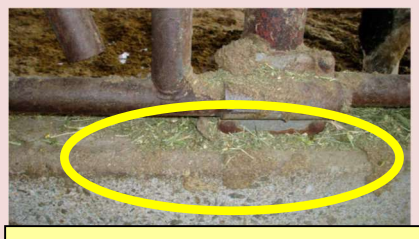
薬剤は、規定の濃度に希釈して、ジョーロ、動力噴霧機を用いて数ｃｍ下まで浸透するように たっぷり散布してください。

何よりも基本は、幼虫の［ 発生源 ］を減らすこと！！





できるところは必ず掃除しましょう ＝ 薬剤散布するより低コスト



縁石の上

牛舎内に潜む発生ポイント
放置すると数日で幼虫が発生



柱の根元



掃除ができない部分を絞り込み、薬剤（ＩＧＲ剤）を定期的に散布し発生を抑える。

成虫防除のポイントは［ 牛舎に入れない ］こと！！

サシバエ用 防虫ネット





ネットのサイズは２mm目で！

※４mmではすり抜けられます

２mmでは頭を突っ込み死んでいる

送風ファン設置など暑熱対策もお忘れなく！！

自主施行したい「簡易型防虫ネット」

- サシバエの休息場所がある面に設置
（効果は１面＜２面＜３面で効果を見て施行）
- 入手が容易な資材を用いる
ホームセンター、園芸店で 買える資材（パイプ、ビニペット、パッカー等）で設置場所に合わせ、工夫して施工する。

斜め張りのネット



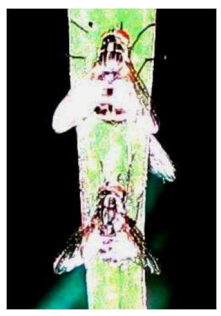
斜め張り（上）は雨で洗われることでホコリの掃除ができます

サシバエ対策２　成虫を入れない、居場所をなくす

成虫対策としては、殺虫剤として昔から「ETB 乳剤」がよく知られています。課題として薬剤耐性が高まることがあるため、同じ薬剤（成分）を使い続けず、ローテーションして使うようにしましょう（年の前半と後半（秋以降）で薬剤を変える（後半に強い薬剤を用いる）等）。

サシバエは気温が下がる晩秋を除き吸血のために牛に近づく時間以外は、牛舎周辺の草むらや木陰で休息しています（右）。

牛舎周辺の草刈りをするなど休息場所をなくしましょう。





朝夕の牛への接近を物理的にさけるサシバエ用防虫ネットの設置が有効です。サシバエを通さない目のサイズは２mmです（左図）。

※ 牛舎内では粘着シート等を併用し、捕獲（殺虫）するのも有効です。よく捕れるのは「青」「白」「黄」。（白・黄は他の虫も多く捕獲される）

（※ 九州大学 松尾和典先生）

Ｐｏｉｎｔ　基本は「サシバエの発生数を減らす」、「牛舎に入れない」

- ○ 出来るところは必ず掃除 ＝ 薬剤散布より低コスト　（１週間以内の間隔で清掃する場所では 成虫は発生しない）
- ○ 幼虫（ウジ）のうちに退治する　（数ｃｍ下まで浸透するように薬剤散布。気温 25℃以上では１週間間隔で散布）
- ○ 成虫の休息場所をなくす（草刈りなど）。　（牛舎内にいる成虫は、性質を利用して「粘着シート」などで捕殺する）
- ○ サシバエに有効な「防虫ネット」の設置。※ 有効な目のサイズは ２mm　（設置時は暑熱対策もお忘れなく！！）

本稿は 全酪連技術顧問 永井秀樹氏の資料を基に再構成しました